



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

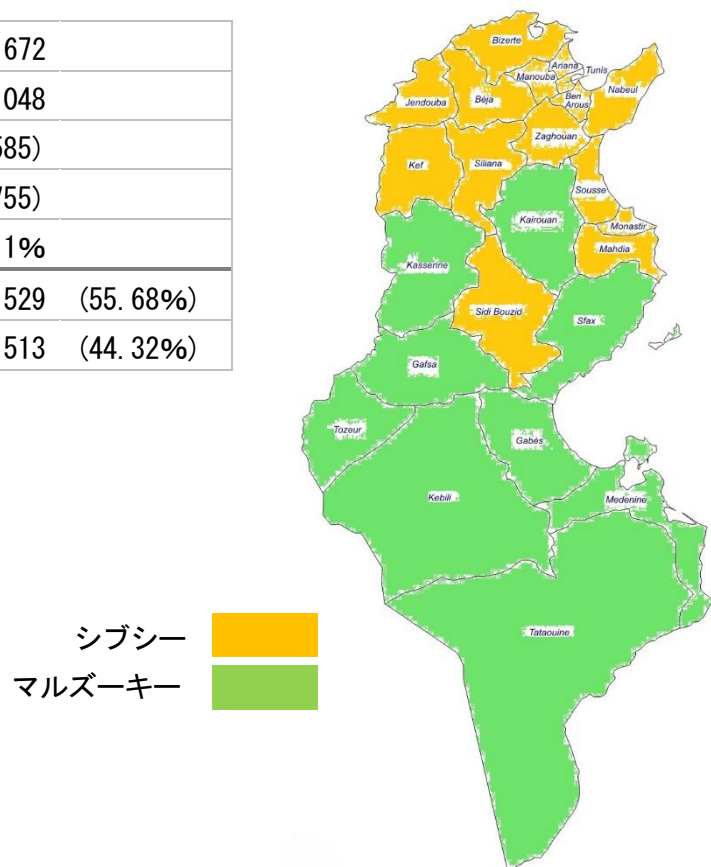
チュニジア：シブシーが大統領選挙勝利

12月21日、チュニジアで大統領選挙の決選投票が行われ、リベラル派の「チュニジアの呼びかけ党」党首のバージー・カーイド・シブシー（エセブシー）が勝利した。11月23日の大統領選挙で過半数票を獲得した候補者がいなかったため、第1回投票の上位2者であるシブシーと現職大統領のムハンマド・マルズーキーが争った。

独立最高選挙機構（選管）が22日に発表した投票結果は以下のとおり。右図では、シブシーとマルズーキーがそれぞれ過半数票を獲得した県を示した。

投票者数	3, 189, 672
有効投票数	3, 110, 048
（無効票数）	（50, 585）
（白票）	（28, 755）
投票率	60. 11%
バージー・カーイド・シブシー	1, 731, 529 （55. 68%）
ムハンマド・マルズーキー	1, 378, 513 （44. 32%）

（出所）独立最高選挙機構HPより作成。



評価

チュニジア大統領選挙決選投票は、11.36ポイントの差でシブシーが勝利した。これは事前の想定通りの結果であった。第1回投票で7割以上の票がシブシーとマルズーキーに集中し（[2014年11月26日付『中東かわら版』No. 191を参照](#)）、得票差はわずか6ポイントであったため、決選投票でも両者は接戦になるだろうと予想された。また、第1回投票後、多くの政党がシブシー支持を表明したため、シブシー票が多くなるであろうことも予想されていた。

最も行動が注目されたのは、議会第2党のナフダ党（イスラーム主義）である。第1回投票においてマルズーキーはナフダ党から事実上の支持を得ており、同党が決選投票でも同候補を支

持するかどうか注目されたが、同党は結局、党としていずれかの候補者を支持することはないとの立場を取った。しかし上記図からは、ナフダ党の支持基盤である南部がやはりマルズーキーに投票したことが分かる。他方、北部・沿岸地域はリベラル派のシブシーを支持した。これは、議会選挙（10月）、大統領選挙第1回投票（11月）と全く同じ投票行動であり、北部と南部の政治的傾向の差異があらためて浮き彫りとなった（[2014年10月30日付『中東かわら版』No. 169](#)、[11月26日付『中東かわら版』No. 191](#)を参照）。

「アラブの春」から丸4年、チュニジアは民主化移行の最終段階である大統領選挙を終え、反政府抗議デモを経験した国々の中では初めて移行過程を完了する。この4年間、チュニジアでは不安定な政治・治安状況が続いたが、諸政治勢力は合意形成に努め、暴力的対立を回避した。この点が、チュニジアの民主化移行を可能にした要因である。しかし、今後の政治過程を楽観視することはできない。「アラブの春」で抗議に参加した者たちの不満の源泉である失業・低賃金問題は解決されていない。イスラーム主義勢力とリベラル派の政治対立は今後も続くだろう。南部や山岳地帯を拠点とするイスラーム過激派が今後も国内でテロ事件を起こす可能性は否定できず、また「イスラーム国」に戦闘員を「輸出」している点も無視できない問題である。シブシー政権は、こうした広く深い諸問題に本格的に取り組まなければならない、諸勢力間の政治的立場の違いを越えた包括的な政策アプローチが必要となるだろう。

（金谷研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799